

2

誰にとっても、 人生は冒険

冒険家として知られる高野孝子さん。世界を股に掛けた旅の一方で、自分の暮らす土地に根ざした環境教育にも取り組む高野さんが、いま育てようとしているものとは？

10

今、最も 歌われている 作曲家

人気企画「日本の作曲家シリーズ」が復活！第1回の主役は、あらゆる演奏会のプログラムに名前を見かける信長貴富さん。その横顔と、作品に込められた思いに迫ります。



74

名曲シリーズ への アプローチ

今年もコンクール課題曲12曲が発表されました。課題曲集の副読本として、各分野の専門家による解説がきつと役に立ちます。

ESSAY



前葉泰幸
津市長

三善晃先生の 合唱曲との出会い

前葉泰幸（まえば・やすゆき）

1962年三重県津市生まれ。52歳。1985年東京大学法学部卒業、自治省入省。熊本県財政課長、京都市政策企画室長、宮城県総務部長、総務省大臣官房企画官などを経て、2006年民間に転じ、デクシア銀行東京支店副支店長。

2011年4月、津市長に当選。10市町村が合併し三重県中部の広域都市となった津市の発展に向けて、中心市街地ビルの再生、香良洲高台防災公園の整備などの地域課題に取り組んでいる。現在、三重県市長会副会長。

三重県立津高校音楽部と東京大学柏葉会合唱団で混声合唱を経験。

私にとっての合唱は、故・三善晃先生の合唱曲との出会いを抜きには語れない。

三重県立津高校音楽部2年の時、出場した合唱コンクールの自由曲は『五つの童画』から『砂時計』と『どんぐりのコマ』であった。県大会をなかなか突破できず歯痒い思いをしておられた顧問の羽根功二先生（現・全日本合唱連盟常務理事）が、乾坤一擲、高校生のあふれるエネルギーをあの「輪になってまわれ〜」というフィナーレにぶつけてみよう、という思いから選曲なさったようだ。怖いもの知らずの一途な若さが結実したのだろう、念願かなって中部大会に駒を進めることができた。ライバル四日市南高校を当時率いておられた稲葉祐三先生（元・三重県連理理事長）は、「津高校の勢いに負けた」とあの時のことを今でも懐かしそうに語られる。

1983年、東京大学柏葉会合唱団第30回記念定期演奏会の委嘱曲として出会ったのが『地球へのバラード』。青焼きの楽譜を初めて見た瞬間の衝撃を鮮明に覚えている。「我々に歌えるのだろうか？」終曲『地球へのピクニック』の音域の広さに技能が追いつかず、必死で食らいついた。三善先生が練習で振ってくださったときに生まれた鳥肌が立つようなハーモニーを励みに、学生指揮者のもと、半ば絶叫するかのように歌い切った委嘱初演であった。

30年の時が過ぎ、羽根先生が三重県連理理事長の小林正美先生とご一緒に市長室にお越しになった。「第3回JCAユースクワイア」をぜひ津市で、というお話である。私自身の若き日の記憶が瞬時によみがえり、声楽を志し次の世代の合唱界を担っていく若者たちが津に集い将来の夢へと羽ばたいていけるよう、実現をお約束した。

3月25日からの5日間、津市白山のしらさぎホールでの芸術創造の取り組みは、また、お城ホールで奏でられたハーモニーは、若者たちにどのような実りをもたらした記憶を残したのだろうか。彼らの洋々たる前途に幸多かれと祈る。